

# 2019 年度美里地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付けの現状、地域が抱える課題

### 1 地域の作付けの現状

本地域は、宮城県北部の大崎耕土の中央から東端に位置し、江合川及び鳴瀬川の 2 本の一級河川が横断する肥沃な耕土に恵まれた地域である。耕地面積約 5,000 ha のうち約 4,700 ha が水田を占め、その大部分は汎用水田として大区画に整備され、水田農業が盛んな地域となっている。

また、本地域の特徴として、地域外の農業者の入り作面積の割合が多く、涌谷町、石巻市、東松島市の農業者が耕作する農地もある。

このような中、本地域では、国が主導で進めてきた主食用米の需給調整に積極的に取り組み、大豆、小麦及び牧草を中心に転作を進めるため、ブロックローテーションやほ場の団地化を促進してきた。また、飼料用米等の新規需要米の作付面積も近年大幅に増加するなど、経営所得安定対策を最大限活用した作付けが進められている。さらに加工・業務用野菜の需要増加に応じた土地利用型野菜への取組も拡大しつつある。

#### ( 1 ) 水田面積及び作付率の推移 ( 単位 : ha ・ % )

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
水田面積	3,978	3,974	3,969	3,961	3,950
水稻作付率	64.33	62.47	62.01	62.21	62.41
主食用水稻の 作付け実績	2,618	2,418	2,442	2,437	2,441

#### ( 2 ) 大豆、小麦、飼料作物及び新規需要米の作付面積の推移 ( 単位 : ha )

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
大豆 ( 基幹 )	489	553	524	536	526
大豆 ( 二毛作 )	136	185	214	217	211
小麦	302	320	316	307	288
飼料作物	69	69	67	66	67
飼料用米	184	294	300	305	285
WCS 用稲	38	38	37	26	32
米粉用米	0	0	0	0	0
加工用米	5	5	9	9	8
備蓄米	39	33	24	18	23

( 経営所得安定対策交付実績\_水田活用の直接支払交付金 )

#### ( 3 ) 土地利用型作物 ( 地域振興作物 ) の作付面積の推移 ( 単位 : ha )

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
ばれいしょ	11.5	14.1	18.6	22.3	20.3
ねぎ ( 青ねぎ・ 長ねぎ )	3.9	3.5	3.5	5.5	5.2
たまねぎ	0.5	0.3	2.8	3.4	3.0
にんじん	3.8	3.2	1.3	2.7	2.1
キャベツ	3.1	2.4	3.2	1.0	1.4
加工業務用野菜	0.7	1.8	0.8	0.6	0.0

## 2 地域が抱える課題

本地域の水田農業が抱える課題は次のとおり

- ( 1 ) 農業者の高齢化や戸数の減少に対し、農業の持続性を担保するための担い手の確保、育成
- ( 2 ) 社会情勢、農産物需要の変化に応じた生産の促進や流通・販売への対応
- ( 3 ) 土地の利用調整による団地化、ブロックローテーションの取組の維持及び拡大
- ( 4 ) 集落営農組織の法人化及び法人化後の経営安定
- ( 5 ) 収益性の高い農業経営への転換

## 2 作物ごとの取組方針等

### ( 1 ) 主食用米

- ア 米の需要 ( 品種、販路、家庭消費向け及び業務用等 ) に応じた生産を推進する。
- イ 生産者の多様な販売先の獲得を支援する。
- ウ 米価変動の影響が少ない複数年契約による生産を推進する。

### ( 2 ) 非主食用米

#### ア 飼料用米

- ・需要に応じた生産を推進する。
- ・麦、大豆、飼料作物の推進及び土地利用型野菜の産地化等を見据え、計画的に推進する。
- ・多収性品種を作付けする場合は、コンタミネーションリスクを回避するため、ほ場固定や機械設備の清掃等の取組を推進する。
- ・耕種農家と畜産農家との連携を推進する。

#### イ 米粉用米

- ・需要に応じた生産を推進する。

#### ウ 新市場開拓用米

- ・需要に応じた生産を推進する。

#### エ WCS 用稲

- ・需要に応じた生産を推進する。
- ・耕種農家と畜産農家との連携を推進する。

#### オ 加工用米

- ・需要に応じた生産を推進する。

#### カ 備蓄米

- ・需要に応じた生産を推進する。

### ( 3 ) 麦、大豆、飼料作物

- ア 土地利用調整の取組を促進し、団地化及びブロックローテーションの仕組みの維持、拡大を推進する。
- イ 作業効率の向上、低コスト化、さらに品質の高位平準化を推進する。
- ウ 生産量、品種及び品質等、需要に応じた生産を推進する。

エ 飼料作物については、適切な栽培管理による良質飼料の生産と畜産農家との連携を推進する。

(4) そば、なたね

ア 既存の取組を維持する(なたねについては、取組なし)。

(5) 高収益作物(園芸作物等)

ア 水田農業の高収益化の柱として、ばれいしょ、ねぎ(長ねぎ、青ねぎ)、たまねぎ、にんじん及びキャベツ並びに加工・業務用野菜を地域振興作物に位置付けし、土地利用型野菜の生産拡大を図る。

イ 需要に応じた生産、加工・業務用野菜の生産、定時定量供給の取組を推進する。

ウ 生産体制の強化のため、組織化、法人化を推進する。

エ 補助事業等の活用による機械設備等の導入を支援する。

オ 野菜の需要動向や生産技術等の情報提供を行う。

カ 実需者とのマッチング等、生産者の販路確保等の取組を推進する。

キ 契約栽培を推進し、収益の安定化を図る。

(6) 畑地化の推進

ア 高収益作物(野菜)の生産拡大を目的とする水田の畑地化を推進する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物名	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面 積(ha)	2020年度の作付目標 面積(ha)
主食用水稻	2,441.3	2,483.0	2,376.4
うち業務用米(t)(注)	6,843 t		
非主食用水稻	352.0	336.4	317.2
飼料用米	285.6	267.8	250.0
米粉用米	0.0	0.0	0.1
新市場開拓用米	2.4	2.7	3.0
WCS用稲	32.1	29.8	26.6
加工用米	8.1	8.1	9.5
備蓄米	23.8	28.0	28.0
麦	288.2	294.0	320.0
大豆(二毛作含む)	738.0	756.8	824.9
うちミヤギシロメ	161.0	163.0	166.0
飼料作物(二毛作含む)	80.7	82.9	85.0
そば	1.2	1.25	1.3
野菜(地域振興作物)	32.0	40.3	45.2
ばれいしょ	20.3	22.5	23.0
ねぎ(長ねぎ、青ねぎ)	5.2	8.0	10.0
たまねぎ	3.0	5.5	7.5
にんじん	2.1	2.7	2.8
キャベツ	1.4	1.0	1.2
加工・業務用野菜	0.0	0.6	0.7

(注) 業務用米のみ数量表記となる。また、数量については、JAみどりの出荷分のみとなってい

る。なお、当年度及び 2020 年度については、数値が確定次第、掲載する。

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	
				前年度（実績）	目標値
1	ばれいしょ、ねぎ （長ねぎ・青ねぎ）たまねぎ、に んじん、キャベ ツ、加工業務用野 菜（基幹作物）	地域振興作物助成 【団地加算】	地域振興作物助成 【団地加算】の対 象面積	（2018 年度）32ha	（2020 年度）45ha
2	ばれいしょ、ねぎ （長ねぎ・青ねぎ）たまねぎ、に んじん、キャベ ツ、加工業務用野 菜（基幹作物）	契約栽培加算【地 域振興作物加算】	地域振興作物助成 【団地加算】の対 象面積  契約栽培加算【地 域振興作物加算】 の対象面積  地域振興作物助成 【団地加算】に占 める契約栽培加算 【地域振興作物加 算】の対象面積の 割合	（2018 年度）32ha  （2018 年度）26ha  （2018 年度）81%	（2020 年度）45ha  （2020 年度）38ha  （2020 年度）86%
3	麦、大豆、飼料作 物（基幹作物）	団地助成（麦・大 豆・飼料作物）	団地助成（麦・大 豆・飼料作物）の対 象となる団地の平 均面積  小麦の 10a 当たり 収量  大豆の 10a 当たり 収量  飼料作物の 10 a 当 たり労働時間  麦の作付面積  大豆(基幹作)の作	（2018 年度）11.2ha  （2018 年度）396 kg  （2018 年度）193 kg  （2018 年度） 2.50h/10a  （2018 年度）288ha  （2018 年度）526ha	（2020 年度）14.5ha  （2020 年度）432 kg  （2020 年度）208 kg  （2020 年度） 3.85h/10a  （2020 年度）300ha  （2020 年度）550ha

			付面積		
			飼料作物の作付面積	( 2018 年度 ) 67ha	( 2020 年度 ) 69ha
4	大豆:ミヤギノメ(基幹作物、二毛作)	指定品種加算(大豆)	<p>整理番号 3 の団地助成(麦・大豆・飼料作物)に該当するほ場でのミヤギノメの作付面積(二毛作含む)</p> <p>整理番号 3 の団地助成(麦・大豆・飼料作物)の対象となる大豆の面積に占めるミヤギノメの作付割合</p> <p>ミヤギノメ 1 等比率</p> <p>ミヤギノメの 10a 当たり収量</p>	<p>( 2018 年 度 ) 161.0ha</p> <p>( 2018 年度 ) 34%</p> <p>( 2018 年度 ) 80%</p> <p>( 2018 年度 ) 173 kg</p>	<p>( 2020 年度 ) 166.0ha</p> <p>( 2020 年度 ) 36%</p> <p>( 2020 年度 ) 90%</p> <p>( 2020 年度 ) 197 kg</p>
5	麦、大豆、飼料作物、地域振興作物助成【団地加算】の対象作物(ばれいしょ、ねぎ(長ねぎ・青ねぎ)たまねぎ、にんじん、キャベツ、加工業務用野菜)(二毛作)	二毛作助成	<p>二毛作の取組面積</p> <p>戦略作物(麦)後ほ場に対する二毛作の面積割合</p>	<p>( 2018 年度 ) 224ha</p> <p>( 2018 年度 ) 80%</p>	<p>( 2020 年度 ) 269ha</p> <p>( 2020 年度 ) 84%</p>
6	飼料用米の生産ほ場の稲わら及びわら専用稲(基幹作物)	耕畜連携助成(わら利用)	<p>耕畜連携助成(わら利用)の取組面積</p> <p>飼料用米作付面積の内、耕畜連携助成(わら利用)に取組んでいる割合</p>	<p>( 2018 年度 ) 223ha</p> <p>( 2018 年度 ) 78%</p>	<p>( 2020 年度 ) 225ha</p> <p>( 2020 年度 ) 90%</p>

7	粗飼料作物等(基幹作物、二毛作)	耕畜連携助成(資源循環)	耕畜連携助成(資源循環)の取組面積  粗飼料作物作付面積の内、耕畜連携助成(資源循環)に取組んでいる割合	(2018年度)52ha  (2018年度)50%	(2020年度)58ha  (2020年度)55%
8	飼料用米(多収品種)(基幹作物)	多収品種導入助成	飼料用米(多収品種)作付面積	(2018年度)14ha	(2020年度)39ha
9	そば(基幹作物)	そば振興助成	そば作付面積	(2018年度)1.21ha	(2020年度)1.30ha
10	新市場開拓用米	新市場開拓用米取組拡大助成	新市場開拓米取組面積	(2018年度)2.5ha	(2020年度)3.0ha
11		畑地の取組	転換面積	(2018年度)0ha	(2020年度)5 ha